

# 保健体育科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法リーフレット

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について・・・



どのような態度を評価すればいいの??

先生の指示を聞いて、積極的に動いている生徒が良い評価??

評価方法はどうしたらいいの??  
毎回の授業で振り返りを提出させるのは、生徒も先生も大変じゃない??



## 目次

- 保健体育科における「学びに向かう力、人間性等」とは 【p. 2】
- 府立学校 実践事例① 体育「武道（柔道）」 【p. 3～4】
- 府立学校 実践事例② 体育「陸上競技（短距離走・リレー）」 【p. 5～6】
- 府立学校 実践事例③ 保健「生涯を通じる健康」 【p. 7～10】
- まとめ 【p.11】
- 参考資料（ICT活用アプリ紹介など） 【p.12～17】

科目体育においては、豊かなスポーツライフを継続することを重視し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に加えて「学びに向かう力、人間性等」の育成に関わる次の7つの指導内容が学習指導要領に示されている!!

愛好的態度 公正 協力 責任 参画 共生 健康・安全

学習指導要領に示されている科目体育の学びに向かう力、人間性等の指導内容

### ○陸上競技

愛好的態度

公正

責任

Ⅰ 陸上競技に主体的に取り組むとともに、Ⅱ 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとすること、Ⅲ 役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、Ⅳ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや、Ⅴ 健康・安全を確保すること。

### ○球技

愛好的態度

公正

共生

参画

健康・安全

共生

Ⅰ 球技に主体的に取り組むとともに、Ⅱ フェアなプレイを大切にしようとすること、Ⅲ 合意形成に貢献しようとすること、Ⅳ 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、Ⅴ 互いに助け合い高め合おうとすることなどや、Ⅵ 健康・安全を確保すること。

協力

この他、体づくり運動、器械運動、水泳、武道、ダンス、体育理論についても記載されています。

■ 実践事例①は「協力」を、実践事例②は「愛好的態度」を取り上げ、紹介しています。



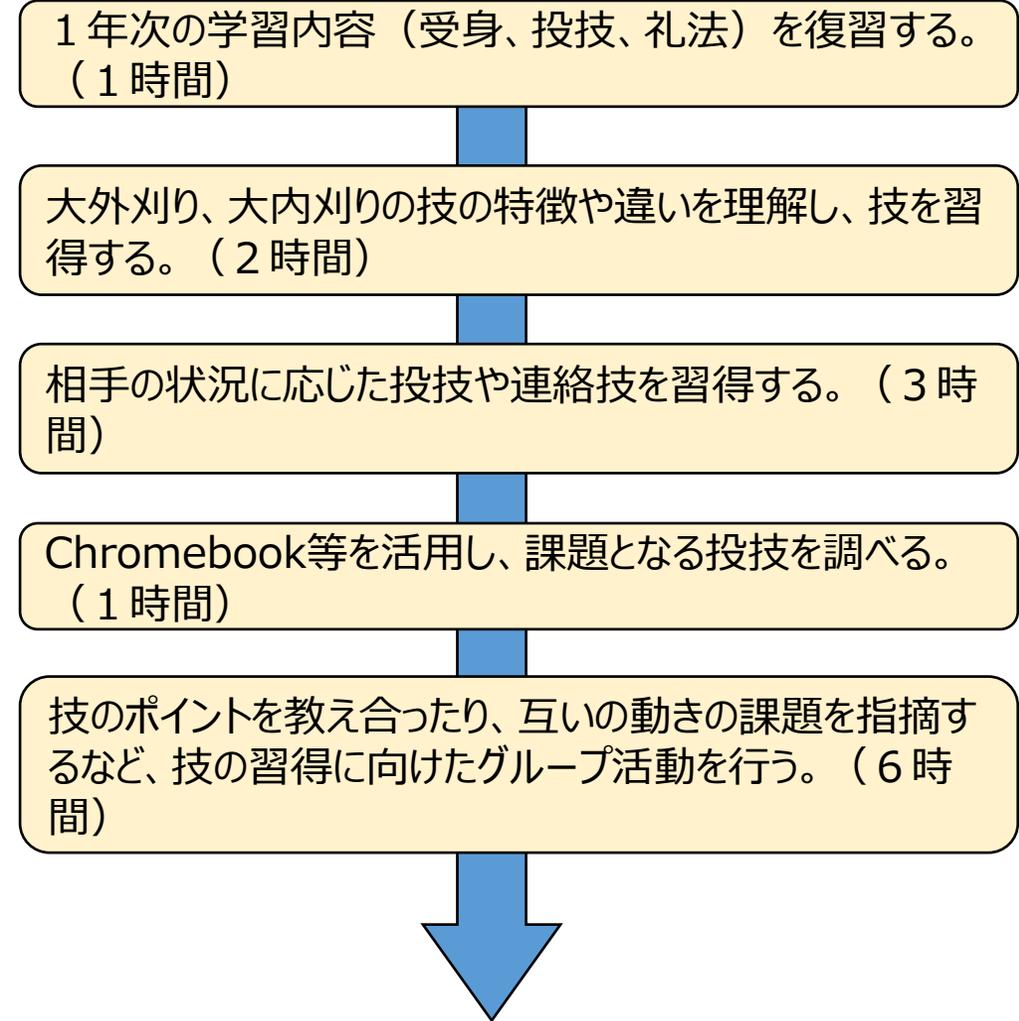
目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
柔道の基本動作や伝統的な考え方、技の名称や動きについて理解し、それぞれのポイントについて説明できるようにする。 相手の多様な動きに応じた基本動作から、相手を崩して投げたり、連絡技を用いて投げたりすることができるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続していくために、自己や仲間の活動を振り返ったり話し合ったりして課題を発見し、協力し合って課題に応じた取り組み方を工夫できるようにする。	武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする。 役割を積極的に引き受け自己の責任を果たし、課題解決に向けた合意形成に貢献しようとする。 一人一人の違いに応じた課題を大切に、自身の大切を高めようとし、健康・安全を確保することができるようにする。

評価規準（実現したい生徒の姿）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知】 柔道の基本動作や伝統的な考え方について理解し、それぞれの投げ技を身に付けるための技術的なポイントがについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【技】 相手の状態に合わせて投げたり、相手の投げ技に合わせて受け身をとることができる。</p>	<p>①自己や仲間の技術的な課題や自身の体力を高めるためにその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>②相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。</p> <p style="text-align: center;">協力</p>	<p>①相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</p> <p>②健康・安全を確保している。</p> <p>③仲間と合意した役割を果たし、合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>④互いに助け合い高め合おうとしている。</p> <p>⑤授業での活動や日々の記録を通して、自身が気づいたことや考えたことを、学習に生かそうとしている。</p>

単元の流れ



## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の詳細

### (1) 評価場面：Googleフォームを活用した振り返り

詳細：

単元終盤に、グループ活動においてクラスメイトからもらったアドバイスやグループ活動を通じて学んだことなどを振り返り、Googleフォームで提出する。

■ 教員は、提出されたフォームの記述内容を総括的に評価する。

【フォームの質問内容】

班での仲間からのアドバイス、自分自身の助言、クラスメイトから学んだことなどを含めて、班活動全体を通して気付いたことを具体的に書きましょう。

【評価規準（態度④）】

互いに助け合い高め合おうとしている。

「協力」する態度について指導し、評価している。

### (2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
互いに助け合い高め合おうとしたことを具体的に書くことができる。	互いに助け合い高め合おうとしたことを書くことができる。
「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて	
どのようなことをグループで話し合ったのか、など具体的に振り返ることができるような声掛けを行う。	

### (3) 評価例

#### 「十分満足できる」状況(A)とした例

【生徒のGoogleフォームへの回答例1】



釣込腰をする際にうまく相手を地面から浮かせることが出来なかったため、**班のメンバーに自分の技を見てもらって相談したら、膝の曲げ伸ばしをうまく使えていないと言われたので、そこを意識して改善してみると相手が浮くようになったので、自分で気づかないことも客観的に見てもらえるとわかるようになるんだな**と思った。

自身の課題について、他者からアドバイスをもらい、実践した上で「協力」したことを具体的に振り返ることができる。

#### 「概ね満足できる」状況(B)とした例

【生徒のGoogleフォームへの回答例2】



班の中での1番上手な人からアドバイスをもらったり、技をかけてるところを見たりして学んだ。班の中の色々な人とやることで、新しい気付きとかがあった。

具体的なアドバイスの内容、見て学んだ技のポイントなどを振り返り、記述できていれば「A」評価に!!



目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
短距離・リレーにおいて、スタート時の加速や中間走の高いスピードを維持して速く走ることができるようにする。	課題解決の方法、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	短距離走・リレーに主体的に取り組むとともに、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする、健康・安全を確保することができるようにする。

評価規準 (実現したい生徒の姿)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①映像を見ながら走力をつけるためのポイントを書き出している。 ②速いスピードを維持するための腕の振りや足の運び方で走ることができる。	①腕の振り、足の動きの課題を理解し、課題解決の方法を書き出している。 ②仲間と協力して、リレーのタイムが早くなる方法を話し合い、課題に適した練習を工夫している。 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">愛好的態度</div>	①課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりし、積極的に活動に取り組もうとしている。 ②決められたルールやマナーを大切に、安心・安全な活動をしている。 ③選択した練習方法から技能の習得・課題解決に取り組もうとしている。

単元の流れ

<短距離走 (50m走) >

50m走における現在の記録及び走りのフォームを知る。(1時間) ※フォームの撮影を行う。

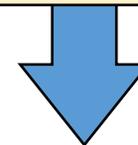
理想のフォームとそのポイントを知り、自身のフォームとの比較から課題を発見する。(1時間)

課題解決、フォームの改善に向けた練習を行い、50m走の再計測を行う。(3時間)

<リレー>

50m走の記録を基にペアを作り、ペアで100mのリレーを行う。(1時間)

100mを速く走るための練習方法をペアで検討し、練習を行い、再計測を行う。(2時間)



## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の詳細

### (1) 評価場面：ワークシートへの記述と観察

詳細：

2時間めに自身の走りのフォームと理想のフォームを映像から比較し、課題の発見、課題解決に向けた練習方法について考える。

3時間めから5時間めで、課題解決に向けた練習を行い、記録の再計測を行う。

■ 教員は、課題解決に向けて取り組もうとしている生徒の姿を総括的に評価する。

#### 【ワークシートの質問内容】

どのように修正すれば短距離走の記録が伸びるのかを考えてみよう。

※前段階で自身と理想のフォームを比較済み

自主的、主体的に取り組もうとする「**愛好的態度**」について評価している。

#### 【評価規準（態度③）】

選択した練習方法から技能の習得・課題解決に取り組もうとしている。

### (2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
自分の課題に対して、課題解決のために書き出した内容について実践することができるだけでなく、さらに改善しようとしている。	自分の課題に対して、課題解決に向けて努力し、実践しようとしている。

「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて

自身の課題について、再度、生徒に確認させ、そのための解決方法のヒントを助言する。

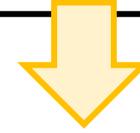
主体的に学習に取り組む態度を「観察」で見取るためには、**判断基準を明確にする**ことが大切です。

### (3) 評価例

#### 【生徒のワークシートへの記述例】



自分は今ランニングの走り方なので、動画で言っていたスプリントに変えられるように手を強く振る、足をもっと上げる、膝を伸ばす、足の入替えを速くする、跳んでいるという感覚で走る、足でしっかり地面を蹴る、つま先が上を向くように走る、などの**ポイントを意識しながら授業に取り組みたいです。**



ワークシートを活用して課題発見を促す。そのうえで、課題解決に向けて取り組む生徒の姿を「**観察**」で見取っている。

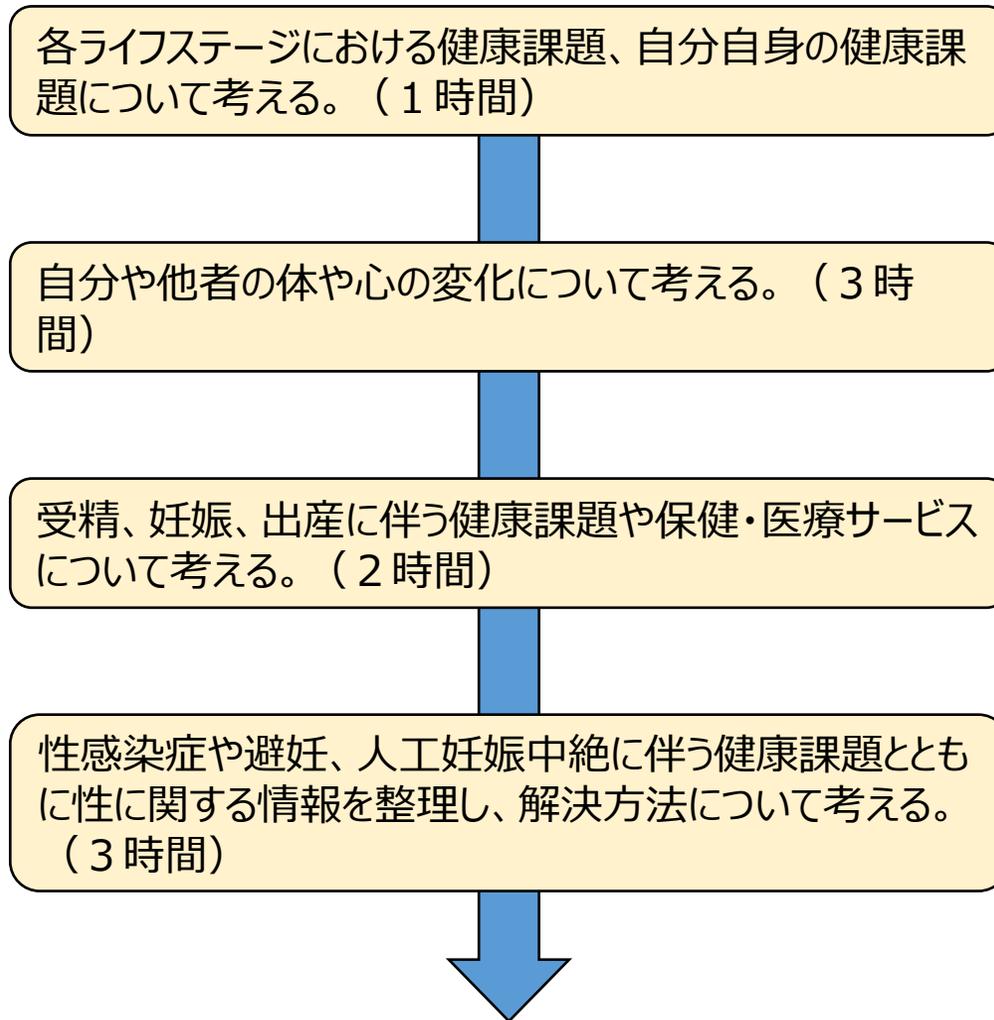




目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること、について理解できるようにする。	生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。	生涯を通じた自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けることができるようにする。

単元の流れ



評価規準（実現したい生徒の姿）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思春期の自分や仲間の心と体の変化を具体的に挙げることができる。 ②急成長する面やなかなか成長しにくい面に対しての健康課題を挙げることができる。 ③性意識の男女差を説明することができる。	①思春期における自分や仲間の具体的な体や心の変化についての課題発見をしたり、解決に向けて情報収集をしたりすることができる。 ②妊娠、出産の過程において、自分自身の役割を考慮することができる。	①生涯を通じる健康に関する事象や情報などについて、自分の生活と結び付けようとしている。 ②思春期における課題について考えたり、その課題解決に向けて情報収集したり、仲間に伝えたりしようとしている。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の詳細

### (1) 評価場面：ワークシートへの記述と観察

詳細：

各ライフステージにおけるライフイベントや健康課題を挙げた後に、自分自身の健康課題について考える。

■ 教員は、ワークシートの記述内容と、課題やグループワークに取り組む生徒の姿を総括的に評価する。

※ 本事例では、ワークシートの記述内容に対する評価のみを記載。

#### 【ワークシートの内容】

① ライフステージごとのライフイベントや健康課題

② 現在の自分自身の健康課題

を考えてみましょう。

#### 【評価規準（態度②）】

自分自身の健康課題を仲間に説明しようとしている。

### (2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
自分自身の課題について、自身の生活を振り返るとともに、ライフステージごとの健康課題を踏まえて具体的に記述し、仲間に説明している。	自分自身の健康課題について記述し、仲間に説明している。
「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて	
生徒の活動の様子に応じて声掛けを行いながら、生徒同士が助け合えるような雰囲気づくりを行う。	

## 保健の評価について

保健も体育と同様に、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容が示されているの??



科目保健では、科目体育と異なり、「学びに向かう力、人間性等」の育成に関わる指導内容が示されていない。そのため、科目の目標を踏まえて育成・評価を行う。



実践事例③では、単元を通して生徒自身の生活に結び付けることや健康課題を解決しようとする学習活動を通して、粘り強さや自己調整といった態度を評価している。



生徒が学習内容を自身の生活と結び付けたり、自他の健康課題を解決したりしていくためには、学習課題やワークシート、振り返りシートの問い方、活用方法等を工夫することが大切です。

(3) 評価例

「十分満足できる」状況 (A) とした例

【内容①への記述例】

【課題①】教科書の例や、自分で考えたことを、ライフステージ別に、「ライフイベント」と「健康課題」をまとめてみよう<文字でも絵でもOK>

ライフイベント	乳幼児期 (~6才)	学童期・思春期 (~18才)	青年期・中年期 (~60才)	高年期 (60才~)
誕生 入学 卒業 卒業 卒業 卒業 面接 試験 就職 出会う 結婚 妊娠 出産 育児 昇進 引越 退職 死	ケガ 成長期 遊ぶ おしゃべり	行事 学業 骨折 自殺? 将来の不安 生活習慣病 恋人? 成長期 うまくいかない不安	いじめ ケガ 交通事故(知) 痛み ケガ 自殺? 交通事故(知) 精神疾患 老後不安 お金に関する不安 子ども思春期 できたことができなくなってくる	がん 病気 ケガ 骨折 精神疾患 歯周病 自殺?

【内容②への記述例】「今の自分の健康課題は何か考えて書いてみよう」

人間関係に不安がある。体調を崩しやすい。食べ物の好き嫌いが多い。ご飯を食べる時間が遅い。遅寝・遅起き。ケガが多く、今痛めているところを治す。人間関係以外にも将来のことについて不安がいっぱいある。

内容①の内容を踏まえるとともに、自身の生活を振り返って、今感じている健康課題を具体的に挙げる事ができている。

(3) 評価例

「概ね満足できる」状況 (B) とした例

【内容①への記述例】

【課題①】教科書の例や、自分で考えたことを、ライフステージ別に、「ライフイベント」と「健康課題」をまとめてみよう<文字でも絵でもOK>

ライフイベント	誕生	入園 入学	卒業	大学入学	卒業	旅行	結婚	育児	旅行	退職	死
	乳幼児期 (~6才)		学童期・思春期 (~18才)		青年期・中年期 (~60才)				高年期 (60才~)		
健康課題	窒息	熱中症	精神疾患	不規則	生活習慣病	転落	白内障	視力低下			
	溺水	アレルギー疾患		視力低下		がん		骨折			

【内容②への記述例】「今の自分の健康課題は何か考えて書いてみよう」 

視力が低下しないように暗いところでスマホを見ない。生活習慣病にならないように規則正しい生活をする。

自身の生活を一定振り返ることはできている。

問い①の内容を踏まえるとともに、自身の健康課題をより具体的に挙げる  
ことができているならば「A」評価に!!

## 科目体育では

- 他教科・科目とは異なり、学びに向かう力、人間性等に関わる7つの指導内容が学習指導要領で示されているが、各単元の中で7つの指導内容のすべてを総括的評価することは困難です。

⇒ 7つの指導内容をバランスよく見取れるように計画を立てることが大切です。

- 振り返りシートなどの成果物が必ずしも必要なわけではなく、体を動かす時間を確保し、その様子を観察で見取っていくことが必要です。

⇒ そのためには、どういった姿になってほしいのかという願いや、具体的にどういった態度を評価するのかを事前に生徒と共有することが大切です。

授業の単なる感想となってしまうように、設問の仕方を工夫し、生徒に何について振り返ってほしいのかを明確にすることが大切。

例えば

- 実技の途中で、クラスメイトと意見交換の時間を設けたうえで、自身の取組みを具体的に振り返ることができているかをこれまでの活動の様子と振り返りシートの記述をもとにして評価することができる。
- 今後チャレンジしたいことや改善点を振り返りシートなどに記述させ、その記述内容の実現に向けて取り組もうとしているかを観察をもとにして評価することができる。

## 科目保健では

- 学習したことが生涯を通じて自分のものとなるようにしていくことが必要です。

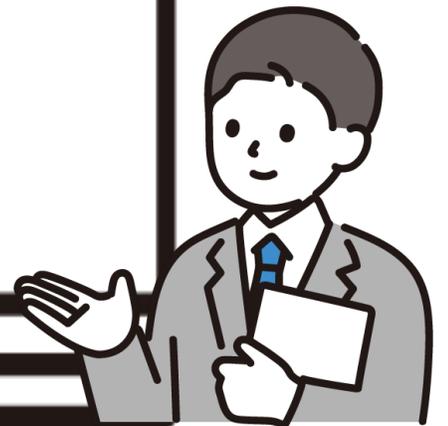
⇒ そのためには、ワークシート等で学習したことが自分の生活と結びつくような学習課題や問いを設定することが大切です。

例えば、

学習したことが自分事となっているかどうかをワークシートなどの記述をもとにして評価することができる。

## 参考資料

- (1) 保健体育科において育成すべき資質・能力とは
- (2) 学習指導要領に示されている科目体育の「学びに向かう力、人間性等」の指導内容について
- (3) 学習指導要領解説に示されている科目体育の「学びに向かう力、人間性等」にかかる活動について
- (4) 文部科学省や府教育庁等が作成した資料





## <学習指導要領における教科の目標>

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、**生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

### 【知識及び技能】

（１）各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

### 【思考力、判断力、表現力等】

（２）運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

### 【学びに向かう力、人間性等】

（３）生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

高等学校学習指導要領（平成30年告示） P.131より抜粋

## 小学校

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、**生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。



小学校学習指導要領（平成29年告示） P.142より抜粋

## 中学校

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、**生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

中学校学習指導要領（平成29年告示） P.115より抜粋



体育・保健体育では、小学校から高等学校までの12年間を通して、**生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現（継続）するための資質・能力**を育成することが求められています。

## Point

- ☑体育、保健体育の目標は、小学校から高等学校までの12年間を見通した一貫性を重視したものであることを踏まえる。
- ☑高等学校は、12年間の最後の3年間であることから、卒業後の運動、スポーツとの関わりや、生涯を通じた自らの健康管理、改善しようとする資質・能力を育成する。

# 参考資料（２）学習指導要領に示されている科目体育の「学びに向かう力、人間性等」の指導内容について

## 科目体育における「学びに向かう力、人間性等」の指導内容

指導事項	中学校 1年・2年	中学校 3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	積極的に取り組もうとする	自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする
イ 公正	勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする	
	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
ウ 協力・責任	よい演技を認めようとする	よい演技を讃えようとする	
	仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
	分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
エ 参画・共生	話合いに参加しようとする	話合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする
	一人一人の違いを認めようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	
オ 健康・安全	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 P.40より抜粋

## 各領域で示されている指導内容

	①愛好的態度	②公正	③協力	④責任	⑤参画	⑥共生	⑦健康・安全
A 体づくり運動	○		○		○	○	○
B 器械運動	○		○			○	○
C 陸上競技	○	○		○		○	○
D 水泳	○	○		○		○	○
E 球技	○	○	○		○	○	○
F 武道	○	○		○		○	○
G ダンス	○		○		○	○	○
H 体育理論	○						

※①～⑦の指導内容のうち、○が付いている項目が各領域において重点化して示されている項目

※「共通事項」を愛好的態度として表記

※「協力・責任」、「参画・共生」を分割して表記



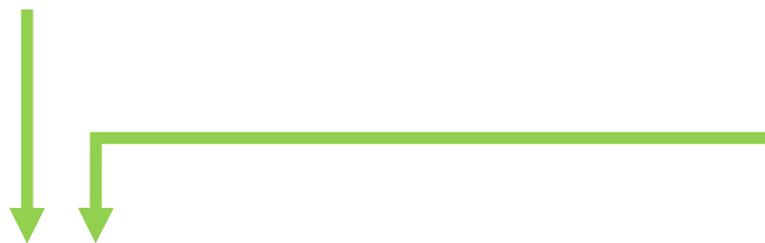
各領域で示されている指導内容は、必ずしもすべてをその領域内で均等に扱わなければならないわけではありません。  
示されている指導内容を中心に、年間を通じてバランスよく指導することが大切です。

## 年間を通じてバランスよく指導するとは??

### ■ 年間指導計画として、領域のA、D、E、F、Hを実施する場合 (右図参照)

①愛好的態度は、全ての領域で共通、⑦健康・安全は、Hを除く4領域で共通して指導し、残りの5つをA、D、E、Fの4つの領域で重点化して示されている指導内容を中心に選択し、指導することなどが考えられます。

	①愛好的態度	②公正	③協力	④責任	⑤参画	⑥共生	⑦健康・安全
A 体づくり運動	○		○		○	○	○
B 器械運動	○		○			○	○
C 陸上競技	○	○		○		○	○
D 水泳	○	○		○		○	○
E 球技	○	○	○		○	○	○
F 武道	○	○		○		○	○
G ダンス	○		○		○	○	○
H 体育理論	○						



指導内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	A 体づくり運動		D 水泳、 H 体育理論			F 武道			E 球技		
① 愛好的態度	全ての領域で共通して指導										
② 公正							○				
③ 協力										○	
④ 責任				○							
⑤ 参画	○										
⑥ 共生										○	
⑦ 健康・安全	H 体育理論を除く領域で共通して指導										

左図のように、年間を通じて各領域で何を指導するのかを計画することが大切です。また、授業担当者による事前の打ち合わせにより、生徒の領域、種目選択に対応することも必要です。例えば、球技でサッカー、バレーボール、卓球を選択種目として扱う場合、3つの種目で共通して「協力」、「共生」について指導し、評価する、ということです。



## 学習指導要領解説に記載のある具体的な活動

科目体育では、指導内容とともに〈例示〉として、具体的な活動例が示されている。

### ■指導内容：入学年次 球技

球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 P.120より抜粋

### ■具体的な活動例

- ・ 球技の学習に自主的に取り組もうとすること。
- ・ 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする。
- ・ 作戦などについての話し合いに貢献しようとする。
- ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする。
- ・ 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとすること。
- ・ 健康・安全を確保すること。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 P.121より抜粋

## 具体的な活動例を活用した指導と評価

入学年次 球技

### ●指導内容

互いに助け合い教え合おうとすること【協力】

### ●具体的な活動例

互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとすること。

### ●評価規準

チームで課題解決に向けた練習を行う場面で、チームの中で互いに教え合おうとしている。

### ●評価場面

単元の中に、生徒が互いに協力することができるような活動場面を設定し、その様子を観察や生徒の振り返りシート等の記述から評価を行うことが考えられます。

科目体育では、指導内容が示されていますので、各領域、各単元で何を指導するのかを精選し、指導したことを評価することが大切です。また、評価を考える際には、評価規準を明確にすることが大切です。**単元終了時に生徒にどのようにしてほしいのかを具体的に**し、生徒にも共有していくことで、評価の客観性、公平性を高めることに繋がります。



評価規準が、記録に残す評価を行う際の判断基準 B（「おおむね満足できる」状況）に相当します。

## 参考資料（４）文部科学省や府教育庁等が作成した資料

- ・ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編

[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_07\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf)



- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）

[r030820\\_hig\\_hokentaiiku.pdf \(nier.go.jp\)](http://r030820_hig_hokentaiiku.pdf(nier.go.jp))



- ・ 「観点別学習状況の評価」実施の手引き 各教科事例集

<https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/pdf/kanntenbetsu%20.pdf>



保健体育の実践事例  
P.32～P.43



- ☑ 体育、保健体育の目標は、**小学校から高等学校までの12年間を見通した一貫性を重視したものであることを踏まえる。**
- ☑ **高等学校は、12年間の最後の3年間**であることから、卒業後の運動、スポーツとの関わりや、生涯を通じた自らの健康管理、改善しようとする資質・能力を育成する。



小学校、中学校の学習指導要領解説等の参考資料から、他校種でどのような指導内容を取り扱っているのか、など確認してみてください。

- ・ 小学校学習指導要領解説 体育編

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFile/s/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_010.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFile/s/afieldfile/2019/03/18/1387017_010.pdf)



- ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編

[https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt\\_kyoiku01-100002608\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf)



- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編）

[r020326\\_pri\\_taiku.pdf \(nier.go.jp\)](http://r020326_pri_taiku.pdf(nier.go.jp))



- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）

[r020326\\_mid\\_hokent.pdf \(nier.go.jp\)](http://r020326_mid_hokent.pdf(nier.go.jp))

